

第49回評価監視委員会の開催について

第49回 一般財団法人建設物価調査会評価監視委員会が開催されましたので、議事概要についてお知らせいたします。

開催日時	平成28年6月23日(木) 15:00～17:00	
開催場所	一般財団法人建設物価調査会 会議室	
出席委員 (五十音順)	木下 誠也(日本大学生産工学部土木工学科 教授) 佐藤 淳(公認会計士) 白戸 智(㈱三菱総合研究所 政策・経済研究センター 主席研究員) 寺川 祐一(委員長(医療用医薬品製造販売業公正取引協議会専務理事))	
当 会	共通資材調査部 大谷 忠広、馬場 秀彦、加藤 清邦、木村 智行 建築調査部 藤井 郁夫、今井 豊、黒澤 昭浩、上中 佑三子 調査統括部 鈴木 昌樹、後藤 裕 監査審査室 渡部 利也、葦浦 正己	
審議案件	案 件	備 考
	(定期調査) 600Vビニル絶縁ビニルシースケーブル(平形)(VV-F) 関東価格	「建設物価」平成28年6月号526頁掲載価格について、調査結果記録票、調査結果集計表等に基づき、調査方法、調査プロセス等を説明。
	(受託調査) 湧昇マウンド礁ブロック 型枠資料 全国価格	受託調査について、調査票、調査報告書等に基づき、調査方法、調査プロセス等を説明。
委員からの主な意見・質問、それに対する調査会からの回答等	別紙のとおり	
委員会による指摘(不適切な点又は改善すべき点)	なし	

意見・質問	説明・回答
<p>1. 定期調査について</p> <p>600Vビニル絶縁ビニルシースケーブル (平形) (VV-F) (関東価格)</p> <p>○ VV-Fケーブルは、オフィスビル用か、住宅用のどちらになるのか。</p> <p>○ インターネット販売では、100m巻の物が売られているが、「建設物価」の取引数量は300m又は1ドラムとなっている。</p> <p>○ インターネットから購入する比率はまだ高くはないのか。</p> <p>○ 電線資材は、海外からの参入はないのか。</p> <p>○ 調査する価格は、一次店、二次店と工事業者間の取引価格とあるが、メーカーと工事業者というケースもあるのか。</p> <p>○ VV-Fケーブルの調査対象者16社の取扱量は多いのか。またカバー率はどのくらいか。</p> <p>○ 需要家の方の調査は行っているか。</p> <p>○ 一次店、二次店の仕入れ価格は調査していないのか。</p> <p>○ メーカーに対しても、その都度もしくは値動きがある場合にフォローをしているのか。</p> <p>○ 値下がりの要因は、銅市況の下落や需要家サイドの値下げ要求などによるものか。</p>	<p>○ 住宅では必ず使用するし、オフィスビルでも使用されることは多い。</p> <p>○ 当会が設定している取引数量は、一束100m×三束(300m)である。</p> <p>○ まだ売上高はそれほどではないが、これから増えてくる可能性はある。</p> <p>○ 最近では参入していないようである。</p> <p>○ 大型のプロジェクトになると、件名取引という大口の直接契約がある。しかし、「建設物価」の掲載水準としては調査対象外としている。</p> <p>○ 16社の取扱量は多い。6割程度はカバーしている。</p> <p>○ 買い手側調査は毎月ではないが、必要に応じて行っている。</p> <p>○ 基本的には販売価格を調査しているため、仕入れ価格は調査していない。</p> <p>○ 代表的なメーカーには、その都度価格動向を確認している。</p> <p>○ 値下げ要求という要因もあるが、メーカーも在庫を抱えている場合、決算前に在庫を減らしたいという、売り手側の事情もある。</p>

意見・質問	説明・回答
<p>2. 受託調査について 湧昇マウンド礁ブロック 型枠資料 (全国価格)</p> <p>○ 単位の㎡当たりというのは、どういうところからきているのか。</p> <p>○ それはコンクリートに接する面積のことか。</p> <p>○ ブロック製作個数に対する貸出率が10%とあるが、これはどういう意味か。</p> <p>○ 貸出し期間2カ月に対して、1つの型枠で10個作れるということか。</p> <p>○ このブロックは必ず工事業者が作らなければならないのか。型枠を賃貸している業者に作ってもらうことはできないのか。</p> <p>○ 共同研究開発で作られたため、この形状に限られるのか。またこのブロックの型枠には競合製品はないのか。</p> <p>○ このブロックが、実際に製作されている場所は限られているのか。</p> <p>○ 型枠の賃貸業者5社は、常に需要があつてこのブロックの型枠を保有しているのか。</p> <p>○ 実際に、このブロックが設置されている場所が何箇所あるか判るか。</p> <p>○ 海底内にマウンド礁を製作する工事は、水産庁以外では行っていないのか。</p>	<p>○ 形成している型枠の面積からきている。業界の商慣習として、㎡当たり価格で求められることが多い。</p> <p>○ そのとおり。型枠1セット当たりの内面積になる。</p> <p>○ ブロック製作個数に対して、用意する型枠のセット数である。例えば、100個製作する場合は型枠10セットを用意する。</p> <p>○ そのとおり。型枠1セットでブロック1個を製作するには4～5日程かかるので、2カ月間で10個程度になる。</p> <p>○ このブロックに関しては、そのような事例はない。</p> <p>○ 各型枠業者はこの形が良いと判断している。他社が似たような物を製作することは可能ではあるが、需要と供給という部分で考えると参入する業者はないと思われる。</p> <p>○ 非常に限られた場所であるし、今回調査依頼のあった水産庁の工事のみになる。</p> <p>○ 常に需要があるのかは判らないが、ある程度の需要見込みがあつて型枠を保有している。</p> <p>○ 具体的な箇所数までは判らないが、長崎県で施工実績があり、現在は鳥取県と島根県でも施工実績がある。</p> <p>○ 現在のところ、水産庁以外の調査依頼はない。</p>
<p>3. 次回開催日について</p> <p>○ 次回評価監視委員会は、平成28年10月下旬に開催予定。</p>	